

4—33—1

1 (表紙)

天明五年巳十一月八日

若旦那様御婚礼^ニ附

鳥取^江罷出候道中并鳥府^ニ日記

□

改^下年木

(貼紙)

「天明五年より文久二年迄

七十八年^ニ成」

2 (白紙)

3 (白紙)

4 (白紙)

5

一 十一月二日米子出足其節見立之衆中^江ら

勝田社^ニ暇乞申、御来屋^ニ昼飯、七ツ時過^ニ

赤崎嶋屋方^ニ一宿、翌三日朝八ツ時^ニ出立^ニ

つはなみ村^ニ夜明申候、夫より油良村丈吉方へ

立寄丈吉同道^ニ□□米屋弥右衛門方参り

手代太助ハ谷本方へ見舞よせ長瀬^ニ

出合申候、昼飯たべ、扱はた屋へ七ツ時到着

かわ屋方^ニ一宿、翌四日六ツ時出立、小山池の

辺^ニ昼飯たべ、八ツ半時^ニ鳥取^ニ到着致ス

6

いもし橋^ニ駕籠より下り宮本助右衛門後藤七左衛門

私三人同道^ニ御下屋敷牛尾五郎右衛門様^江

罷出候所、御上屋敷被成御出御逢□上村様^江も

罷出候所、右同断、牛尾九郎右衛門様も右同断

夫より二階町平野屋清次郎方へ参、袴羽織

^ニ上御屋敷御勘定場へ罷出石田儀兵衛殿へ

御目かゝり御添書指出申候所、御役人様方御承知

先ハ御休足申哉被仰出候、宿平野やへ罷帰候

一

同五日昼時迄音物取揃助右衛門と兩人出勤

御下屋敷五郎右衛門様源藏様水原東草野

7

牛尾小頭源内上村小頭清兵衛方^江も相勤、夫より

中屋敷高坂馬淵岡本参、夫より新屋敷
石田儀兵衛殿方参、夫より向屋敷源左衛門様へ
罷出御上屋敷庄左衛門様方へ御伺申内に
御荷物少々参拝見いたし申候、又御馬屋并
上田得兵衛殿宅^ニも御婚礼之節御迎之馬具^ニ
候も拝見申候、其内米子道中出合同道^ニ而御家中
一見仕候内、追々権現堂近辺へ参候^ニ付、序之
参詣申度義申者有之、直不残参詣仕候、暮々^ニ
宿へ罷帰候、七左衛門も出勤仕候所、暮々罷帰候
七左衛門申様、先刻石田儀兵衛殿被申候ハ明日ハ

8

御荷物参候間、麻上下^ニ而罷出候様被仰渡候由、七左衛門
より申聞申候、且又夜^ニ入村瀬千太郎様しかの海道
和田屋平治郎様の宅御出候付、七左衛門助右衛門同道
^ニ而見舞申候

一

六日朝飯後御上屋敷御勘定場へ
麻上下^ニ而出勤、石田儀兵衛殿へ掛御目
暫有之、牛尾九郎右衛門様始掛御目
何角御頼申置候、夫より御式台へ
罷出御帳面付もらひ候、其節之

9

書付左之通

次^ニ

大谷政太郎	遠藤与三左衛門
宮本助右衛門	舟越治郎左衛門
後藤七左衛門	のなミ屋常五郎

出雲屋与吉

□□屋清兵衛

右之通書付を以申上候、夫より
御勘定場録之詰場へ参居申候内
石田様より酒肴御持参、又上田得兵衛殿
より酒肴御持参、皆々御盃宛吞候

10

一 七日早朝御上屋敷へ罷出、庄左衛門様^ニ掛
御目申候^ニ付、助右衛門と私申上候ハ、明日御迎之義
并其節衣服之義ハ絹布^ニ仕哉、又ハ綿

服ニ仕候哉^与相伺申候所、庄左衛門様被仰候^{ニ者}
屋敷内^{ニ而}も、のしめ着申者ハ藝州より
被参候衆中へ対面之者計、其外ハ皆
絹服之由、左候得^者其方達も其通^{ニ而}
先年之例も有之候ハ、御迎^ニ被出□□□□
被仰候^{ニ付}、私より申上候^{ニ者}元文中

1
1

津田様ハ御座御婚礼御祝年之節
祖父九右衛門御歛^ニ出府仕候砌も御迎之
節^{ニハ一寸御門内ニ而}
公方様拝領仕居申候御紋御時服
着仕候、例之通此度も何卒着仕候度
相伺申候所、庄左衛門様被仰候ハ夫^者
年久敷事只今^{ニ而}用捨仕可能之由
被仰候得共先例申立候得ハ随分着
相成候得共何角被申候^{ニハ内願之}

1
2

指障^ニも相成候間、御意次第と申上置て
罷帰候節、序^ニ御下屋敷牛尾様上村様へ
罷出候處、五郎右衛門様^{ニ而}ハ源内殿を以被仰出候ハ
今明日ハ至^{ニ而}御用多、殊^ニ只今□様居申候節
御婚礼後寛々御逢被成候由、源藏様ハ
早朝より御屋敷へ御出勤、依之惣左衛門様
御逢被成四方山の咄いたし、扨夫より朝飯
たへ、又御上敷御勘定場出勤いたし
其後^ニ馬場拝見申候所、志摩様
御二男様并福田丹後様御乗被成候を

1
3

ゆる／＼致拝見候罷帰候

一 八日朝^{御婚礼ニ付}五ツ時分麻上下^{ニ而}御勘定場迄出勤

夫より銘々詰所へ罷出候内、御並前様方追々
御出被成候を拝見仕候内、九ツ時分御轡入
之由、先年^{御屋敷}御上臈様亘様へ御出被成候節
同苗共御見立申上候通、御門内並木松

之根ニ迄御迎ニ罷出居申候内、御行烈
賑々敷御機嫌宜御入被遊候、夫より
御支度被仰付一汁三菜御勘定場

14

玄関ニ而給申事、又詰所へ参居申候
然ル所漸日暮ニ成申候所夜九ツ過ニ御客様方
御帰被成候ニ付御式台番御中小性衆中と
陰ニはいより御並様方御帰致拝見候、且又
田鍋と申もの案内ニ而御座敷一寸御座敷
致拝見候、八ツ時罷帰申事
一 九日朝五ツ時上下ニ而御上屋敷へ御歛ニ罷出
御式台へ書付を以御帳面ニ被付もらひ
申候、夫より御下屋敷へ参、牛尾五郎右衛門様ニ
上村源蔵様九郎右衛門様弥兵衛様金左衛門様

15

右五人様参御歛申上候事
一 十日五ツ時、上下ニ而御上屋敷へ罷出詰所ニ居
申候内、藝州様より御使者とシテ大勢御出被成
釣台ニ而御進物参候を致拝見候、此日も
七ツ時御支度被仰付候御勘定場之
玄関ニ而給申候■夜四ツ時ニ罷帰候事
一 十一日朝五ツ時、袴羽織ニ而御上屋敷罷出
御坊主衆を以相頼九郎右衛門様ニいま御逢被遣候様
申上候所、追付御逢被成候内、暫有之九郎右衛門様

16

銘々詰所へ■^御出被成候ニ付、私より申上候ハ此度
御上様へ御目見へ之節献上之義ハ若旦那様
へも別ニ献上仕候哉、此段御評義可被遣并
御料理申節ハ先年も後藤共^与ハ同席仕候
町庄屋共ハ別間ニ而御料理被仰付候、此度も
先年之通銘々三人ハ別間ニ而被仰付被下様
申上候所御承知之由被仰候後刻迄ニ献上之
義被仰出候由被仰御奥へ御入被成候、暫有候て
又御出被成^而被仰聞候ニハ此度献上ものハ一品

17

御両殿様御請被為遊候間、一品_{ニ而}可然由
被仰付奉畏罷帰候事

一 十二日ハ御上様之献上もの取調申一切出勤
不申候、暮六ツ時牛尾九郎右衛門様より左之通
御手紙被遣候

大谷政太郎殿 牛尾九郎右衛門

今般之御祝儀_{ニ付}

明十三日四ツ時

18

御目見被仰付

已後御料理被遣候間

御出可有之候、以上

十一月十二日

右之通申参候_{ニ付}即刻袴羽織候_{ニ而}

御下屋敷牛尾五郎右衛門様源藏様

裏判九郎右衛門様も御請_ニ罷出候事

19

一 十三日_{自前}上下_{ニ而}朝五ツ時御上屋敷御勘定場

迄献上分釣台_{ニ而}為持遣候、跡より罷出候所

四ツ時分御目見被仰付候一番_ニ米子惣代

不和助右衛門二番大谷政太郎三番宮本助右衛門

四番後藤七左衛門此四人ハ御老役牛尾

五郎右衛門様御同役上村源藏様村瀬

庄左衛門様之内御老人五郎右衛門様御脇披露

被遊候、御口上ハ今般之御悦_{ニ付}御目見被

仰付難有奉存申候と被仰上候、私献上を

20

御取次被下候ハ御給人田邊幸之進様

宮本助右衛門分ハ馬渕儀左衛門様御取次

遠藤以下ハ御脇披露牛尾九郎右衛門様

御献上御取次、御近習藤田十藏殿并

御料理被遣候節ハ御弓之間之上の間_{ニ而}

私助右衛門七左衛門右三人、其次_{ニ而}遠藤より

以下之面々則御座敷之御図左之通

(六つの区切りの図の内五つの文字)

(縦書き) 壺間半の御内縁

(横書き) 後藤七左衛門

宮本助右衛門

大谷政太郎

(縦書き) 是より遠藤以下

御共之間

御式台

2
1

右之通首尾能御目見相仕舞并御料理

ゆるく頂戴仕候内、御老役様方御挨拶

之節ハ私共三人御弓間迄下り御挨拶を

請申事、其外九郎右衛門様源左衛門様方ハ

度々御挨拶被遊候并御上様より御酒

被遣候節ハ九郎右衛門様より私へ御盃被仰付候

夫下座へ相廻数遍頂戴申候事御膳相済

被入御念候御菓子三ツもり御茶ハ御坊主衆

手前ニて薄茶被遣、夫御暇乞申上御門外へ

出申候_而又御礼として其足_{ニ而}御屋敷へ罷出

2
2

御式台へ御礼ニ罷出候事、夫より庄左衛門様

五郎右衛門様源藏様九郎右衛門様迄相仕舞

申候事、尤其晚四ツ時前也、且又罷帰候_而

首尾能相仕舞候故内祝申候事

一 十四日七左衛門_{ぬしや}助右衛門_{同々}同道_{ニ而}河下御下屋敷

拝見ニ参、其序ニ小林政右衛門様へ罷出候處

掛御目候条内願之趣委細相頼罷帰候事

且又御下屋敷東市右衛門様ニ米子より

出府被成候、甚兵衛様御逗留故御伺_ニ

2
3

罷出候、且又内願之次第具相頼申候

事、其後掛りニ木村采治郎様罷出候

□今日ハ不快候由取次被申出候ニ付兼_而咄候

置旧記一冊願書之写取次を以指出置

罷帰候事

一 十六日早朝御下屋敷九郎右衛門様罷出候所掛
御目候付、私申上候ハ私旧格之義ハ継目之節
出府仕候^而御礼申上來候處、十年已前
私之家格被仰付候節其段先規之通

24

出府仕度候儀相願候處、御時節柄以先御
飛脚を以相仕舞、折を以出府候節、右
御老中様方へも罷出候様被仰渡候故無抛
乍恐飛脚を以御□聞申上置候間
此度之御歛ニ参上候得ハケ様成能折
も御坐候間乍御面倒相□候様ニ
被仰付可被下候由御頼申上置、其外
四方山の咄仕罷帰候事
一 同日草野様東様へ罷出内願之趣
逐一御頼申上置候事

25

一 同日村瀬庄左衛門様處御伺罷出候得共
御上屋敷へ御出勤故不掛御目罷帰候事
一 同日杵村様へ此間酒肴被遣候節、若旦那様
御見舞被下候ニ付御礼ニ罷出候得共御客も
御坐候ニ付御子息様へ掛御目罷帰候事
一 同日々源左衛門様へ罷出内願之筋委細
申上候所悉御承知ニ御坐候御馳走被仰付
ゆる／＼物語申上置候事
一 同夕納屋佐一郎方居申四人明日罷帰候ニ付
暇乞ニ参候事

26

一 十六日平服^{ニ而}助右衛門七左衛門私三人連^{ニ而}
御下屋敷九郎右衛門様御方へ罷出申上候ニハ
御並様方へ御目見之儀申上度旨御評義
被下候様ニ御頼申上罷帰候事、夫より五郎右衛門様へ
御伺ニ罷出候處、御逢被成候ニ付何角御礼申上
并是又御並様方へ罷出度旨申上候處
御承知之事、尤内願之筋ハ追^而可申上様
申上置候事、又御上屋敷庄左衛門様所へ
右之御伺ニ罷出候得共御出勤ニ付不掛御目候

27

一 同日和田様御下屋敷○坂井六兵衛様并
神田七郎右衛門様伊織様御内石下傳左衛門様
○藤原藤八郎様千葉之助様御内白山十兵衛様
東原権兵衛様平右衛門様御内田川庄左衛門殿
同御下屋敷砂川源五右衛門様并吉岡仁兵衛様
右之門数相勤罷帰候事、且又同夕
木村栄治郎様へ見舞申候、夫より杵村様へ
罷出候處御門外へ早御出被成候ニ付乍立
御伺申上候所、書付等ハ御屋敷へ持参候様

28

被仰聞候故、源左衛門様御宅へ持参申候所
御女中へ相頼申置罷帰候事
同夕石田儀兵衛殿より預案内三人共ニ
致推参深更およひ帰申事

一

十七日朝早天ニ村瀬庄左衛門様へ罷出候而
御並様方へ罷出候義相願候處御承知故
罷出候、御門数書付入御覽申候事
且又其節庄左衛門様より被仰候ニハ此度
之御祝義御用之義も大方昨日迄相済

29

申候ニ付米子ニ而承申所之願書等も
今日より評義申候事并其方内願之筋
も今日より可申上と存候事と被仰聞
尚又委細御頼申置候事、将又
源左衛門様罷出当四月米子表へ指出
申候所之願書之写杯入御覽、尚又具
御頼申上候而罷帰候、夫より又右一冊
庄左衛門様迄致持参候所御上屋敷
御出被遊候ニ付御帰被遊候迄御取次被下候様ニ

30

□□殿市□兵衛殿を相頼申置罷帰候事
尤若旦那様御馬場有之候ニ付
暫時奉拝見仕候事

一

十八日朝飯後助右衛門と同道ニ而上村様
罷出、兩人共御並様方罷出候義相願申上

并私義ハ内願之筋委御願申上置候事
且又昼時より志摩様御下屋敷^江罷出
田井庄瀬中様文村文之丞様序^ニ儀右衛門
方へ見舞夫より瓦町林新兵衛様方へ

3
1

罷出候帰掛^ニ伊吹元昌様へ致推参候、帰候
處石田儀兵衛殿より左之通御手紙申参候

大谷政太郎様
宮本助右衛門様
石田儀兵衛

口話

弥御平安被成御座候處珍重^ニ奉存候
然ハ御役頭急々懸御目度有之候由
自私申進呉様^ニ被頼申候付申進候
只今之内御役所迄御出可被成候

3
2

尤御老人^{ニ而}宜敷由^ニ御座候、已上

十一月十八日

右之通手紙参候^ニ付即刻私

御勘定場迄罷出候所九郎右衛門様より
被仰渡候ハ只今別紙書付之通被参候間
□道相心得候様被仰渡候

志摩様御目見、明十九日八ツ時

千葉之助様御目見、明後廿日朝飯後

3
3

右之通被仰渡候^ニ付右之御請^ニ庄左衛門様

五郎右衛門様源藏様九郎右衛門様へ罷出候事

一 志摩様へ之御添使者^{御中小性}田邊弥次左衛門殿へ
被仰付候^ニ付此方へも参致挨拶申置候事

一 志摩様御家臣田井庄三郎様、此へも御請^ニ

罷出候事并千葉之助様御内白山東原

氏へも罷出候事、同夕五郎右衛門様より被仰渡候

^{ニハ}只今伊織之助様御内下石藤原より

左之通申参候間、源藏様へ罷出御紙面

入御覽申候由被仰聞候^ニ付、其段申上置候事

3
4

一 私内願之義も其序^ニ五郎右衛門様へも

委御願申上置候事并旧記一冊五郎右衛門様
へ入御覽置其段も源藏様へ申上候事

一 九郎右衛門様又罷出候而私申上候ニハ明日
志摩様へ御目見被仰付候間、其節

殿様より先祖之者共頂戴仕居申御上下
着仕度奉存候、尤親共継目候節も出府
仕候節着仕候間此段御達申上候にて
申上候得ハ随分不苦様被思召候事

一 十九日早天より志摩様迄献上之樹等

35

拵置候所ニ四ツ時ニ牛尾九郎右衛門様より御手紙
被仰下候文言左之通

36

一 廿日朝飯後早々伊織之助様へ御目見
被仰付候ニ付献上之煎海鼠一折家来ニ
為持御添使者御中小姓中村健治殿へ
方迄助右衛門と兩人致推参候、夫より同道ニ而

伊織之助様御屋敷へ罷出候事、則
殿様より先祖之者共拝領仕候

御紋之御上下着仕而罷出候、御目見

之節ハ御給人上村喜兵衛様献上もの御披露被下
五ツ時首尾宜御目見候、其節

37

伊織之助様より御言葉ニハ入念候而被出候との
御意被遊候、引しざり候事、且又御家臣

下石傳左衛門様ニハ故障ニ付出勤無之故御同役

藤原庄右衛門様ニ掛御目申、又御下屋敷より

御両家へ罷出御目見被仰付難有候旨御礼

申上候處、傳左衛門様ニハ掛御目申候事

夫より御上屋敷御勘定場へ罷出九郎右衛門様へ

御礼申上候并庄左衛門様五郎右衛門様源藏様

江も罷出御礼申上候事

38

一 廿一日夕源藏様へ罷出候處不掛御目罷帰候事

一 廿三日九郎右衛門様より以手紙御上屋敷へ罷出候様

被仰付、即刻助右衛門同道仕罷出候所、九郎右衛門様より

被仰候ハ明後廿四日、左門様御目見
被仰付候間申来候間早々御家臣衆迄
御請罷出候様被仰、直々御請ニ罷出候事
一 庄左衛門様源藏様五郎右衛門様へ罷出候事
一 同日小林氏へも罷出候□□同夕
弥次兵衛様へも罷出候事

3
9

一 廿三日御勘定場迄罷出候様九郎右衛門様より申参
即刻罷出候處被仰渡候ニハ明日志摩様并
千葉之助様左門様罷出候様申来候間
則別紙之通刻限候間間違なく様
罷出候様仰渡候事

志摩様、明朝飯後早々
左門様、明日四ツ時

4
0

千葉之助様、明日朝飯後早々
甲斐様よりハ御式台迄勝手

次第ニ罷出候様

右之通被仰渡候ニ付直ニ御家臣

衆中へ御請ニ相廻候事

一 廿四日朝飯後早々上下ニ而御添使者

津村才兵衛殿宅迄助右衛門と同道ニ而

参、千葉之助様江罷出首尾宜御目見

4
1

仕候、夫より志摩様江御目見ニ仕候、且又

左門様江罷出首尾宜御目見仕候

夫より甲斐様江罷出候得共御病氣ニ付

御目見不仕候得共献上もの指出候事

御添使者ハ甲斐様御門外ニ而暇乞

いたし、夫より皆様御家臣衆中江

御挨拶ニ罷出候并御上様御下屋敷

御老役并九郎右衛門様且又津村殿へも

致推参候事

4
2

一 同日御勘定場ニ而九郎右衛門様より被仰候
ニハ明朝飯後御上下被仰付候間

罷出候様被仰渡候事

一 廿五日朝飯後早々御勘定場迄

助右衛門七左衛門私三人連_{ニ而}罷出候處

九郎右衛門様より被仰候_{ニハ}今般之御祝義_ニ付

御上下被仰付候也と被仰、則御上下一具

被仰付助右衛門も同様七左衛門_{江者}此度之

御祝義_{ニハ}御上下御折紙并先年

頂戴居申候御上下と申候_而木綿_{ニ而}老重物

4 3

御紋付頂戴申候事、右_ニ付御式台へ

拝領申候御上下を着し候て罷出、今般之

御祝義_ニ付御上下御拝領被仰付難有

奉存候と申上候、夫より御下屋敷

御老役并九郎右衛門様御屋敷へ右之

御礼罷出候事、勿論頂戴申候御上下

_{ニ而}廻申候事

一 同夕上村源藏様御伺_ニ参上仕候所

一汁三菜之御馳走被仰付寛々と

咄仕深更迄居申候、罷帰候事

4 4

一 廿六日五ツ時助右衛門七左衛門帰国_ニ付千代川迄

見立申候、其帰懸_ニふるミの松原御茶屋

□□候事、同夕源藏様へ昨夜の御礼_ニ

致推参候事、其序_ニ東市右衛門様へ

伺_ニ罷出候所御留守、九郎右衛門様へ伺_ニ

罷出候所是又御留守故口上_{ニ而}申上

義候、此間へ御上様御祝義之干鯛

三人の者被遣難有奉存候、右_ニ

罷出候、尤

4 5

助右衛門七左衛門義へ今朝帰国仕候_ニ付

乍憚私より宜申上呉候様相頼置

罷帰候、此等之趣九郎右衛門様御帰被成候へ、

宜様御取次御頼申候と女中頼置候

夫より木村様罷出候得共不掛御目罷帰候

一 廿七日三刀屋六郎兵衛殿被参候_ニ付長咄

いたし出勤不申候、尤同夕大工町
平野屋甚治郎殿宅へ清三郎殿同道
参候所、奥の間へ通段々預馳走八ツ時
過迄も居申候趣相伴として京都

46

茶師の手代大津屋政太郎殿

是又何角内願之趣も荒々相頼申置候
御事随分被致承知候

一 廿八日昼時より亘様御家臣若原氏へ

小川氏へ致伺公候所小吉右衛門様ニハ

御留主故音物計指出頼置罷帰候事

弥助様ニハ掛御目罷帰候事

夫より五郎右衛門様源藏様九郎右衛門様

47

弥次郎兵衛様源左衛門様江当日之御礼ニ

罷出、其序ニ石田儀兵衛殿宅罷出候

夫より伊藤清左衛門殿方見舞致候事

同日顕功寺へ先日菓子被呉候由

礼参候事

一 廿九日昼時過ニ平野屋甚治郎殿方へ

此間之礼致推参候所、又々段々預地走

罷帰候事、同夕九郎右衛門様へ明日御礼

48

之義伺ニ罷出候得共少々御氣分悪しく候故

不被成御逢申候故罷帰候事

一 十二月朔日朝飯後早々御上屋敷江

当日之御礼として麻上下ニ罷出候處余り

早々故御役人様方未御出勤無之ニ付

村様

村様へ当日之御礼ニ伺公申候處御逢被成

依之願之趣共又々委敷御頼申置候

并伺申上候ニハ当日之御礼御式台ニ

49

罷出候而御帳面ニ付もらひ申度旨を

源左衛門様へ相伺申候處、至極尤之由ニ
被仰聞、即刻例之通御裏御玄閤

之方より御式台罷出私より申上候ニハ
大谷政太郎当日御礼奉参上仕候、先以
寒冷之節御上様益御機嫌宜

恐悦至極奉存候、御序之節宜様

奉願上候^与申上候事、夫より御下屋敷

五郎右衛門様源藏様九郎右衛門様并

50

市郎右衛門様弥二兵衛様政右衛門様^江も当日

之御礼ニ罷出候、九郎右衛門様五郎右衛門様ニハ

御門内^{ニ而}一寸掛御目申候^{ニ而}罷帰候事

同夕平野屋甚治郎被参候ニ付、八ツ時分致

地走候、尤相伴市場屋甚藏殿三田屋

六郎兵衛殿平清殿

一 二日少々気分不勝候付、出勤不申候事

一 三日安十郎様御義鶉殿様へ御入被遊

51

候ニ付上下^{ニ而}御式台迄御歛ニ罷出候事

并御老役様九郎右衛門様草様寺嶋様

杵様香坂様^江も罷出候事、且又今般^北

安十郎様御祝義ニ付肴等献上仕度之旨

相伺申上候所九郎右衛門様御尤^ニ思召候事

尚又御老役様へ御伺被遣候ハ、「[」]

夫より栄治郎様へ伺^ニ罷出候事

一 四日夕九郎右衛門様へ罷出弥明日ハ

52

今般安十郎様御祝儀ニ付肴一種献上

仕候哉と相伺申上候處、九郎右衛門様より被仰聞

候ハ御老役様御飛露被為遣候之由、則

献上もの用意申候事

一 五日昼時^ニ御上屋敷へ罷出候處早

五郎右衛門様も源藏様も被成御帰候由

被仰聞左様御座候ハ、明朝罷出度

と申上候得ハ九郎右衛門様可被然候由被仰

罷帰候事

53

一 六日朝飯後早々上下^{ニ而}御上屋敷へ

献上もの家来ニ為持罷出候、則御坊

主頭を以指出申候、暫有テ御老役様

御兩人御逢被成、今般安十郎様御祝義

ニ付肴被進候處、則披露申候と被仰付

罷帰候事

一 七日

54

一 八日杵村様へ御伺ニ罷出候處、段々御懇意

其上又々御地走被仰付内願之趣逐一

御聞届被為遊候事

同日五郎右衛門様へ罷出候處御客来有之

明日罷出候様ニ被仰付罷帰候事

同日源藏様へ罷出候處御留主ニ而不掛御目

罷帰候事

一 九日興禪寺へ致参詣、夫より御下屋敷

55

五郎右衛門様江罷出候處、御逢被出万々

委布申上候處一々御承知被遣候事

今夕源藏様へ罷出候處御逢被出具

内願之趣申上候處御懇意ニ被仰付候事

一 十日朝早々五郎右衛門様口上書持参仕候而

御取次を以指出申上候事

同日朝源左衛門様へ罷出掛御目、又々

何角申上置候事

56

一 十一日^夕朝源左衛門様罷出

源藏様へ罷出候處御逢被出何角内願之

筋御内々御評義之次第被仰聞逐一返答仕

罷帰夫五郎右衛門様へ罷出候處御氣分悪しく

依之御逢不被成罷帰候事并九郎右衛門様へ

御伺ニ罷出候處是又御^{留主}来ニ而罷帰候事

一 十二日早朝九郎右衛門様へ罷出候處御客来ニ付

夕飯後罷出候様被仰聞罷帰候、其序ニ

亘様御下屋敷若原氏へ参候處御寺参ニ而

57

不掛御目、夫より小川氏へ罷出候處重_而罷出候
様被申候□罷帰候事

一 同日夕方九郎右衛門様へ罷出候處被成御逢
願之趣致催促并魚鳥口錢目錄等

掛御目置候事

一 十三日少々氣分悪しく引籠申候事

一 十四日 同断

一 十五日 同断

一 十六日 同断

58

一 十七日まにさんへ参詣、尤三六郎兵衛と
平の屋内義と同道いたし夜ル五ツ

時_ニ罷帰候事

一 十八日夕草野様利三郎同道_ニて

罷出候事

一 十九日九郎右衛門様へ罷出候處御逢被成
願之趣致催促候處兎角干鰯

口錢之義ハ埒明不申候由被仰聞候

ニ付右魚口錢之義又々申上置候

59

并米子より相廻申候問屋共より年々

奉公請狀誓詞等入御覽申候處

正しき事と被思召候也

一 同日五郎右衛門様源藏様_江も罷出候得共

不掛御目罷帰候事

一 十八日亘様御家臣若原氏小川氏へ

罷出候得共懸違不掛御目罷帰候事

一 廿日明日嘉吉一寸米子へ返し申候□

書状相認候故出勤不申事

60

一 廿一日朝飯後嘉吉一寸指返申候事
然候處夜前より大雪_{ニ而}余程降つも
り候事

一 廿二日朝飯後早々亘様御下屋敷_{ニ而}
両家へ参、夫より御上様御下屋敷_{ニ而}

牛尾氏両家上村様草様へ□

申候處暫く掛違罷帰候事、尤

源藏様へハ五郎右衛門様御内々ニテ

6
1

御目ニかゝり申候事

一 廿三日先達_而米屋利三郎を以

池田多仲様_江御出入被仰附候様願候處

廿三日暮方ニ願之通被仰付候由、利三郎より

申聞セ候ニ付、則刻利三郎と同道仕

いもし町御下屋敷_{御家老}中村四郎兵衛様方へ

御請ニ罷出并御屋敷之内_{ニ而}御目附衆二人

尾関藤兵衛様永田忠太夫様并ニ

6
2

篠塚権太夫様此仁ハ右御出入之義段々

御世話ニ預り申候付相勤ル

一 廿四日夕飯後池田様御内四軒_江

鯉老連つ、私持参仕候事

一 同日亘様御下屋敷へ罷出候得共又々

掛違申候事

一 九郎右衛門様へ罷出候得共未御帰不被成候事

一 同夕罷出候得共御客来ニ付不掛

6
3

御目罷帰候、尤多仲様より御出入被仰付候

義ハ申上候事

一 源藏様へ罷出候處、明朝罷出候様被仰渡候

事

一 廿五日朝飯後源藏様へ御伺ニ罷出候處

早御上屋敷へ御出懸被成候ニ付一寸掛御目ニ

罷帰候、尤明早朝ニ罷出候様被仰候事

6
4

一 廿六日早天ニ源藏様へ罷出候處掛御目

ゆる／＼何角御窺申上候、源藏様被

仰聞候ニ付、扨々其方兼_而願之趣も

御用多ニ付今以米子表へ不申遣候、尤

書状草案等ハ相認置申候間、内々

御見被遊度候由被仰聞、其段重々

難有奉存候と申上置候事、并ニ
多仲様より御出入被仰付候事申上置候

65

且又先達^而御老中様へ御用銀之義
御家臣様方へ此方御老役様より被
仰遣候節之御返報被仰付候様ニ
相願申候處、其段安き事と被仰候事
扱又問屋治右衛門より年々祖父代々
入置候誓詞并奉公證文右ニ通
源藏様へ入御覽申候處、預度之趣
被仰候^ニ付、則右ニ通源藏様へ指出シ

66

置罷帰申候事
一 同日朝米屋利三郎帰国内町市右衛門
同道^{ニ而}尤罷帰候時源藏様被□候^ニ付□
得其意不申候事

一 大晦日夜前より大雪近所へも歩行難相成候
得共ふんこみ^{ニ而}早朝^ニ御下屋敷五郎右衛門様
源藏様九郎右衛門様源左衛門様へ歳暮
御伺^ニ罷出候處、九郎右衛門様^ニ掛御目申候^而

67

御上様へ年始御礼御目見等之義相伺
申置候事并源左衛門様^ニも掛御目
何角□□□ゆるく被仰聞候事
罷帰夫より三田屋六郎兵衛方^ニ参ゆるく
預地走申候事

68

一 天明六年午正月元日早天麻上下^{ニ而}
御上様御役懸へ年頭御礼罷出候事、尤
御上様より拝領仕候御紋之御上下^{ニ而}先ツハ
明方故清二郎方へ参、夫より別紙帳面之通
扇子老箱宛致持参候事、御下屋敷

牛尾御両家上村草野^{水原寺嶋}東氏夫より

御中屋敷高坂馬淵岡本氏夫より又

69

御向屋敷杵村様へ先之旅宿へ罷帰候
尤金左衛門様と利右衛門ニハ掛御目申候事
并五郎右衛門様源藏様ニ鹿の海道宗門
際ニ而掛御目申候事

一 二日

一 三日御上様御内御□人様方御中小性衆
御従士衆小人至迄不残年頭饋盃
相廻申候事、尤道中ニ而源左衛門様并

70

弥二郎兵衛様ニ掛御目罷帰候事

71

一 十八日之夕源藏様御伺ニ罷出候處、少々
御氣分御勝不被成候ニ付、明夕ニ而も罷出候様ニ
清兵衛殿を以被仰聞□罷帰候事

同夕五郎右衛門様へ罷出候處、是又御不快
故重ニ而罷出候様被仰聞候事

同夕九郎右衛門様ニ掛御目寛々何角
申上候事

同夕源左衛門様へ罷出候處御逢被遣段々
御地走被仰付、何角ゆる／＼申上候ニ而罷帰候事

72

何角御懇意不大形候事

一 廿六日之夕九郎右衛門様へ罷出候處

御留守、夫より源藏様へ罷出候處、是又

御留守ニ而五郎右衛門様へ罷出候處

御内ニ在宅之由依之御伺申上度

73

取次衆を以申上候處、被仰出候ニ付

明日米子表之飛脚指返候ニ付

悉御用も就夫源藏様も御出被成候由
重ニ而罷出候ハ、御逢も被下由取次衆

被申候ニ付、左様ならは重ニ而参上可

申上候と返答いたし帰候事

一 同夕源左衛門様へ罷出候處即刻

御逢被下候ニ付何角申上候處

7
4

至極尤之事と被仰聞候并ニ

私より申上候者近々作州木山様へ

参詣仕度と申上候處左様ならは

九郎右衛門様相断可罷出旨被仰

聞候奉畏候と申上候事

一 廿七日ハ不成就日故出勤不申候事

一 廿八日夕九郎右衛門様へ罷出候處

又々御留主ニて又源藏様へ罷出

7
5

候得共米子への御用書等御認被成候故

難御逢被遊候旨被仰出重而

御左右被仰聞候旨、又々

五郎右衛門様罷出候處少々御氣分

御勝不被遊、重御逢被成度被仰出

候故罷帰候事、夫より木村様へ

罷出帰候事

7
6

一 廿九日之夕九郎右衛門様へ御伺罷出候處

掛御目候處九郎右衛門様より被仰聞候ニ者

此間源藏五郎右衛門方へ被参候哉と御尋

被成候、私より申上候ニハ此間兩度罷出候得共

折悪しく御座候ニ付御逢被遣候と申上候得ハ

左様ならば先ツ私より内々ニ而御知らセ可申

と被仰聞候義ハ此間ハ米子表より其方

内願之趣返答有之候處至而六ヶ敷

7
7

申越候、剩当方役人中へ耳当り成ル

返答至候迷惑成事也、其方願ニ

限り格別ニ執成申候事有間敷候事抔と

申遣中之口上ニ覺不申候と尤指貫屋

位頼母志二番□等存寄も有之由依之

当所より申遣書面案紙并米子表より之

返翰等も其方へ老役共より一覽

有之様ニと申候事、乍併未何之事も

7
8

無之委細不申入候ハ、又存寄も有之事候哉
先日之私より出申候事極内々と被仰聞
右之趣九郎右衛門様被仰聞候事
依之私より返答其段荒増同苗方より
此間申遣候得共先達ニも申上候此度
ハ私家苗無覺束奉存候間左様成
御返答并頼母志忤之事被仰出
候_而も中々得罷帰不申候、尤思召之段
重々難有仕合奉存候、何様善悪

7
9

之義近々被仰渡可被遣奉願候
尤乍此上兎角宜御慈悲候様数多之
家族及渴命不申候様奉頼上候
と申上候處其段委曲承知と被仰聞候
且又此度大望ニ付作州木山天皇へ
心願御座候間參詣仕度奉願上候、尤日数
十五日程御免被仰付候ハ、難有奉存候と
相願候處夫ハ至_而相成間敷候、畢竟

8
0

当處へ出府、又余所へハ難参様ニ
被存と被仰聞候ニ付私より又々
申上候_者右様被思召候ハ、先ツ御役外_{ニ而}
御談被遊可被遣、何卒御聴届被遊候様ニ
奉願上候と申上置罷帰候事
一 二月二日之夕九郎右衛門様へ御伺ニ罷出候處
御逢被下被仰聞ニハ其許内願之趣も先日
米子より返答申遣候得共六ヶ敷相聞候ニ付又々
押返し宜評義致し申候由老役共より

8
1

申遣今日共ハ米子表御至着候と被存候と
被仰聞重々難有奉存候と申上候、且又
此間内々作州へ被参度旨其段内々
評義申候得共先達而私より申候通此義ハ
至_而相成不申候事、左様相心得可被申候乍併
極内_{ニ而}一寸参詣被致候_而も不苦様被存候
其段石田儀兵衛殿へ内々相頼申候様ニ

被仰聞奉畏即刻石田氏へ罷出

右之趣相頼候處、逐一吞込被申候付
何様明日一寸旅宿致御尋向候筈と

82

約束いたし罷歸候事

一 同夕栄治郎様へ罷出及内談申候事

一 同三日

一 同四日明六ツ時ニ木山参詣ニ出立其夜
四ツ時ニ由良村丈吉方ニ一宿、翌五日
早天ニ出立其夜五ツ時歸着仕候

一 六月七日滞留

一 八日朝六ツ時ニ出足、其夜長瀬村迄

83

罷歸、翌九日七ツ時ニ鳥取へ歸着申候

一 同日夕内々着届ケニ九郎右衛門様へ

罷出申上置候事

一 十一日之夕九郎右衛門様へ罷出候處掛御目
何角承合候處、何分御老役様方江も
相伺可申候と被仰聞候事

一 十二日夕源藏様へ罷出、掛御目申候
處、何角九郎右衛門より先達而米子表

84

首尾承被申候哉と被仰聞候事

尤近日又々達

御聴其上ニ而評義いたし申候由被仰候
左様ならは近日御伺ニ罷出度由

申上罷歸候事

一 同夕五郎右衛門様へ罷出候處■■■■

御留守之由罷歸候事

一 十六日今般五郎右衛門様奥方様

85

御祝年ニ付右祝鯛として大鯉一喉酒式升入
進上仕候并源左衛門様御方ニ而も当年

御後室様百歳之御祝被遊候ニ付何ぞ御歡も

申上度所存ニ候處、先達而清治郎を以

源左衛門様被仰候ニハ政太郎より祝申候處

迷惑申候間斷申候由被仰候ニ付時候之
伺として大鯉老本指上候所夫を
御祝鯛御受被下使之者^江も御祝義等
被遣候事

86

一 九郎右衛門様も四十二之御祝年ニ付大鯉
一本并酒壺樽指上候處使之者御祝義
被遣候事

一 十八日七ツ時五郎右衛門様より今晚罷出候
様ニ被仰遣奉畏候と返答仕暮早々
罷出候處玄關へ通候由被仰出、暫く相待
居申候内ニ五郎右衛門様御逢被成四方山
の御咄、扱私願之趣被仰出候内々逐一

87

被仰聞候ニハ其許願之趣も右干鯛之
口錢之義御公儀へ御願被申候義重キ
事両国灘相懸候義ハ相成不申候様
ニも旦那様ニも被為思召候、依之其許
難渋御救之ため先規之家禄等
之義彼是と旧冬已来其許へ申入候
ニ付□角宜様ニ被申候ニ付其趣
旦那様へ御伺申上御意之趣米子表へ
申遣候處以之外返答何とも致迷

88

惑申候、尤ひらきなをり候^而も又々米子へ
申遣事も有之候得共、畢竟左様ハ
相成候^而も却^而其許為^ニも悪しく候
様成外指こらへ申候事、元来此度
魚口錢之評義申遣候義、全以其許
願被申事候^{ニ而}ハ無之、右干鯛口錢
御面倒ニ被思召、依之如何様共仕
政太郎難渋相凌申候様評義仕候様
被仰出候付、右之次第米子表へ

89

申遣候夫迄酒屋や銘共よりまひなひ
ニ^而も取捨別ニ世話致候様ニ心得違

と存候と被仰聞候ニ付私より申上候義ハ
御意之通米子表御役人様被思召
米子表^江ハ干鰯口錢と偽り御当地へ
罷出候^而魚鳥口錢之義押^而御願
申上候義ハ先年親九右衛門直訴も同様
表より三十年余も御用等相勤不調法
も無之者共御取上政太郎へ先規之通

90

杯ハ至^而相成不申候、不入願杯と被仰聞候
趣、先達^而内々同苗方より申遣候
左候得ハ如何候、此上御心配被為遣候^而も
逆私願之筋ハ相立不申候、夫押^而御願
申上候^而ハ却^而弥御苦勞を懸候様相成申候
此上ハ善とも惡とも米子表より返翰も
御座候ハ、一日早く被仰渡可被遣素り
私家も是切と相定、則当月廿四日
祖父九右衛門相果三十三年ニ相当申候

91

當時三十三年至極之及難洪候義、米子
表御取計故、偏残念ニ奉存候、然ルニ□□
数多家族頭者共一人宛養育□□
頼□候、当年七歳ニ相成候弟一人同年ニ
相成候忤一人菩提所之寺方小僧
相頼申遣候、尤今以返答無御座候
右之趣□候得共乍去旧年
御上様□御用借之義大山之如く難有奉存候
并尊前様始当地御役人様ニハ

92

御先代様御由緒之義被為思召
并私難洪之趣御不便ニ被思召ニハ
色々御心配^主被遣候義ハたとへ此度私身ハ
又内々相成候^而も誠此迄先規通
蒙仰候も同様冥加至極難有仕合
奉存候間先刻申上候通此上ハ無廻
次第御坐候間善惡之儀急々
被仰渡可被遣奉願候と申上候

又々五郎右衛門様被仰聞_{ニ而}至極

93

尤成事成り、乍併如何様相成候銘々
より此納口へ付不申候_而も所全相済不申候間
左様相心得可被申候と可被仰聞、尤
米子表意味違之義ハ幾重_ニも致承知
居申候なれハ氣遣有之間敷

念頃_ニ被仰聞重々難有候間此上

大変相成不申候様難渋御救被遊可遣
奉願上候と申上候處、可被承知候被□
尤此義ハ外へもらし不申候と被仰聞

94

奉畏候と申上候、且又五郎右衛門様より

被仰候_{ニハ}此程妻祝年之義及聞_{ニ而}

此間ハ被入念_{ニ而}□事肴等被呉、近頃

致迷惑申候、祝納申候、夫_ニ付今晚

何も無之候得共一寸盃申度由妻共

申候間、勝手へ通被呉候と被仰聞此段

じたい申上候も又内々存難有と申上

夫より奥へ御同道被遊候、奥様始

御家内様不殘御逢被遣

95

段々御懇意被仰付夫より被入念候_而

一汁七菜之御料理_{ニ而}段々酒宴

及長座、夫結構成菓子并奥様より

忤へ遣候様と被仰乍恐

御上御前様御細工之楊枝さし

切紙入たばこ入等被遣難有奉存候

頂戴仕候而罷帰候事并家来

江迄も御馳走被仰附候事

96

一 十九日昼時源藏様より呼被遣、即刻

罷出候處御座敷へ御通し被遊_{ニ而}今日

呼遣義ハ兼_而願之義_ニ付極内申入度

義有之候間近くへ寄候様_ニ被仰聞御向間

{ニ而}ひそかに被仰聞候{ニハ}扱々其許

兼^而干か口錢願之義ハ弥以相成不申候
様^ニ被為思召、尤極難洪故此度以

御慈悲御恵ミ被仰出候間近日九郎右衛門より

97

御上意之趣申渡候間左様^ニ相心得

可申と御内々被仰聞候^ニ付私より申上

候^ニハ右干か口錢願之筋御公儀へ御指出シ

被為遣かたく^ニ付^作私難洪御救之為

今般御恵ミ被仰付候義ハ身余り

外聞実儀相立重々冥加至極難有

奉存上候と申上候處、源藏様より被仰聞候

^ニハ此度御恵ミ之申入候義も余之義^{ニ而}ハ

98

無之、下問屋共へ被遣候式歩之所其方へ

壹歩已来其許へハ四歩宛相納申候

下問屋共へ術五朱宛^ニ相成申候事、尤

已後随分何等^ニ不限下問屋共其許へ

随ひ申候由御意之趣是又申遣候

間左様相心得可被申^与被仰聞候

扨々無限難有仕合奉存候と申上候

且又私より申上候義ハ万一米子表^{ニ而}

99

先年之通違変之筋御座候ハ、何とも

外聞相立不申候、其節ハ如何仕候哉と

申上候處、源藏様より被仰候^ニハ其氣遣ハ

少しも無之、此度御上様思召を以

御恵ミ被仰付候事、其上不返答^ニ

御上対し不相済、若又左様義も

有之候ハ、即刻当地可被出、此義ハ

銘々受合申候と被仰聞候、左様

ならは御願迄と罷出候^而御了意

100

可申上と御暇乞仕罷帰候事

一 同日五郎右衛門様へ昨晚之御礼伺公仕候

處、折節指合^ニ付御合不被遣源内殿へ

対し申上置罷帰候事

一 廿日早朝源藏様へ昨日之返答ニ

罷出候處御逢被成私申上候ハ昨日ハ段々
御懇意被仰付并御内々被仰聞候趣

一々奉畏候、此上何角と申上義も却_而

御厚恩忘却_ニも相当り申候間御恵_ニ

101

被為仰出候ハ、違拝不仕候、冥加至極難有

奉存候、御請申上度奉存候、尤下問屋

共儀心得違不仕候様乍此上奉願候

并昨日申上候通少し_{ニ而}も相違之節決_而

御受不仕候間其節即刻直訴仕候

間左様_ニ被思召可被成候と申上候處

其段ハ氣遣有間敷私より訳立

可申候、被仰聞左様なら_者今日_{ニ而}も

九郎右衛門様より御意之趣表向

102

被仰渡候様御評義奉願上候と

申上候處、委細承知と被仰罷帰候事

一 同日七ツ時九郎右衛門様より呼被遣

罷出候處被仰渡候_{ニハ}其許兼_而

御公儀へ御願被申度干か口錢之義

旧冬御上様_ニも段々御心労_ニ被思召

候得共重事故弥以不相成候旨被

103

仰出候、尤其許難渋之次第御不便_ニ

被為思召、依之此度御慈悲を以

御恵_ミ被為仰附候、尤御恵之次第

之義米子表_{ニ而}申渡候間御請可被申候と

并干か願書も彼地_{ニ而}おひて受取可申候と申

九郎右衛門様より被仰渡候_ニ付私_{より}

申上_キ小去年巳米御願申上候_キ付、則_レ只_{今迄も}

私より申上候ハ乍恐去秋已来

御公儀へ御願申上度干か口錢取之義ハ

104

弥以御評義被為仰付かたく_ニ付今般

御慈悲以難渋為御救之御恵_ミ被為仰付

御義ハ余身冥加至極重々難有仕合奉存上候
左様も御座候ハ、近日米子表へ罷帰御請
可申上候、尤帰国之節御添并此度

御恵ミ被為仰付候次第御用書も

私迄被仰付可被遣奉願候、且又旧冬

出府仕いまた年頭も乍恐

105

御上様^江不奉申上候間何卒近々之内

御目見へ被仰付候様奉願上候と

九郎右衛門様御願申上候處至極尤^ニ被思召

何分明日^{ニ而}も評義可被遣度由被仰候

且又御役外^{ニ而}何角申上候處源藏様

同様^ニ一々被仰聞候事

一 同朝源藏様より帰懸^ニ源左衛門様^江

罷出候^而源藏様より昨日已来被仰聞候

趣一々申上候處此度ハ先心□御請

106

申上可然様被仰聞何様近々

ゆる／＼と被仰聞候事

一 廿日七ツ時^ニ池田様御内篠塚権太夫様より

御使口上之趣旧冬御手紙之趣致承知候

處、尤近来迄御穩便□申入候何様此辺へ

御出候ハ、一寸御立寄被下との口上故私より

返答^ニハ被入御念候御使御口上之趣奉畏候

早春已来御伺^ニ罷出候筈之處昨日迄

些指控居申候事も御座候故□失礼仕候

107

何様今晚御伺^ニ罷出可申上候間左様^ニ

御心得可被遣候と返答いたし

夫より夜入早々伺公いたし候處御留主^{ニ而}

不掛御目罷帰候事

一 廿一日

108

一 廿二日池田様御内権太夫様へ罷出候處

御逢被下始^而掛御目何角申上候處、具^ニ

御承知^{ニ而}御座候、右^ニ付此度御出入之

義^ニ付肴一種多仲様^江献上仕度

并御目見へ之義ハ重^而出府之節^ニ被仰

付候様^ニ願置、且又年頭之義ハ帰国仕

飛脚を以申上度旨申上置候處、一々御承知
之事

109

一 同日七ツ時過^ニ九郎右衛門様より呼被下候^ニ付

即刻罷出候處被仰聞候^ニハ先達^而

御上様^江年始之御目見被仰附候様

御願被申候處御目見江之義ハ旧冬も被仰付

候間此間及夫不申様被為思召候、尤例年

之通御肴一種献上之砌上下^ニ而被罷出候ハ、

老役中より披露も有之候間其節其方

御式台迄年始御礼之趣可申上と

110

被仰聞候^ニ付奉畏罷帰候事

一 廿三日竹森権兵衛様へ御伺^ニ罷出候處

御上屋敷へ御出勤未御帰宅不被成候^ニ付

口上申置罷帰候事

一 廿四日まに山へ参詣并秋葉山且又

岩愛山へ赤松八幡宮へ参詣之事

一 同夕九郎右衛門様へ罷出候處、御祝年之

御盃被仰付一汁七菜之御料理□□

111

酒肴種々被仰付御菓等迄并茶町住人

木綿取紛^ニ而及大酒各々罷帰候事

一 廿五日朝五ツ時麻上下^ニ而大鯛式枚献上

物持参御上栈屋敷へ罷出、則

御老役様御披露^ニ而年始御礼申上候事

則右之通り御式台へ罷出御帳面^ニ

付もらひ申候事、夫より御役かゝりへ

不残罷出候事

112

一 同日平清同道^ニ而寺参、夫より奥谷の

御墓所へ参詣、且又一ノ宮へ参詣夫より

立川の天満□宮へ参、其外多工間堂へ

杯拝見候事、罷帰候處源藏様より
呼被遣、且又五郎右衛門様よりも呼被遣候付
即刻参上仕候處源藏様ニも御逢被遣
五郎右衛門様も御逢被成候、先日源藏様より
内々被仰聞も同様と被仰候方故
悉安心仕候事、九郎右衛門様へ

113

昨晚之御礼罷出申置候得共、夫より
赤松八幡宮へ参詣、帰ニ源左衛門様へ
御祝年之御料理被遣候、案内□□□
御請ニ罷出候事

一 廿五日杵村御後室様当年百歳之

御賀ニ付御案内受申候ニ付上下ニ而罷出候處

一 汁五菜御料理□□候由并御後室様

御盃頂戴申、夜四ツ過ニ罷帰候事

114

一 廿七日朝、五郎右衛門様罷出取次を以口上、且又

私義も明後廿九日罷帰度奉存候、御用之義も

御座候ハ、被仰付候様申上候處、五郎右衛門様より

被仰聞候ハ只今出かゝり居申候間明日ニ而も

罷出候様ニ被仰聞候、且又源藏様へ罷出候處

是又御出かゝり被遊候故、夕飯後罷出候様ニ

被仰聞候事、九郎右衛門様へ罷出候處早

御上屋敷へ御出勤候由依之即刻

御屋敷御勘定場へ罷出掛御目候而

115

明後日帰国仕度旨并御添書等願置

罷帰候事并杵村様へ罷出夜前之

御礼申上候、且又明後日帰宅之由申上置候

事、扱又竹森権兵衛様へ罷出候處

御逢被下ゆる／＼申上候事、其外出入門へ

暇乞ニ罷出候事

一 同日多仲様御内籥塚氏へ罷出今般

御出入被仰付候御礼之献上もの之事

伺申候處勝手次第指出申候よし

被仰聞候事

116

一 同夕源藏様へ罷出候處忝御逢被下其節
被仰聞候ニハ元来親九右衛門家続之節
問屋只今之通相成候節之書付等ハ如何候
哉と被仰候ニ付委曲之義申上候并此度之
義ハ少シも間違ハ無之十ヶ九ツ迄も慥存候
其内返答もいたし候ハ、再答ニおよひ
申候と被仰聞左様ならは弥安心
仕候、若又間違之節ハ早々当御地へ
参上仕候と申上候得ハ其段御承知

117

被遊候、随分罷出候様ニ被仰聞候事
一 村市へ用向二品并栄治郎様用向
一 廿八日弥明廿九日帰国ニ付同夕御役懸りへ
暇乞ニ相廻申候、則五郎右衛門様へ罷出候處御逢被成
ゆる／＼と暇乞申上候、夫より源藏様へ右同断
九郎右衛門も同断源左衛門様も右同断
清厳寺或ハ三田屋共へ暇乞之事
一 廿九日鳥取出足、其夜ハ長瀬ニ一宿し
翌晦日長瀬出立、同夕御来屋ニ一宿
翌三月朔日御来屋出足、同八ツ時下り

118

米子へ着帰、勝田社へ参詣夫より天神橋
之根ニ而駕籠より下り家来一人召連候而
帰着届ケニ御老役御両家并御奉行衆
御両家へ罷出、尤鳥府御老役様方より当地
御奉行様当之御添有之候ニ付十左衛門様
指出申候、小八郎様へハ其段申上候事
一 二日朝之間ニ御役所廻へみやけものくはり
夫より旧冬已来御祝事御願ニ庄左衛門様
九之丞様へ十左衛門様小八郎様へ罷出居申候處
同苗藤兵衛より呼ニ遣罷出候所藤兵衛より由中

119

申聞候ニハ只今御役所よりは是之通ニ
仰渡候間左様相心得申候由藤兵衛より申聞候
則御書出之写如左

大谷政太郎

其方儀近年勝手向

依難洪御両国灘筋干鰯

口錢取之儀相願候得共

重キ願之儀難被

120

仰付候、依之此度格別之

以御評儀両下問屋

取前口錢之内五朱宛

御取ケ合老歩御増被遣

下地二歩_与都合四歩被

仰付候

右之通ニ御座候ニ付則、去年

九月五日ニ指出候干鰯口錢願書ハ

121

則御下シ被遣候事

一 右ニ付即刻御奉行伊丹十左衛門様

熊沢小八郎様并御老役村瀬庄左衛門様

日置九之丞様へ御請ニ罷出候事

一 同三日当日之御礼ニ罷出候事

一 同四日明日ハ今般之御礼当所御役所へ

申上候ニ付相応之音物用意之事

一 同五日右今般之為御礼御役所廻候

猶着并一品指遣置候、尤昼時頃ニ麻

122

上下_{ニ而}熊沢小八郎様へ罷出候處少々

御氣分悪しく候故久右衛門殿へ口上申置候

尤奥様へも申上置候事

一 同日山内右平太様御目附役被成候付

此度御礼罷出候處掛御目申上候事

一 同日庄左衛門様へ罷出候處被成御逢候故

何角ゆるく申上候處首尾宜相成候

_而段々御懇意候事

一 同日九之丞様へ罷出候處被成御逢候故

何角ゆるく御懇意被仰聞候事

123

一 同日伊丹十左衛門様へ罷出候處掛御目
今般之御礼申上候事

一 同日伊藤甚兵衛様へ初_而御出入申上候_ニ付
御後室様奥様にも掛御目預御地走候、尤
私よりも音物羽織表并酒肴致進上候
事

一 同三日鳥取東市右衛門様甚兵衛様方へ
御入来御逗留_ニ付乍序掛御目寛
何角申上候事

124 (白紙)

4—33—2

(17と18の間にあつた文書一通)

(端裏書)

「大谷政太郎殿

牛尾九郎右衛門」

今般之御祝儀_ニ付

明十三日四ツ時

御目見被仰付

已後御料理被遣候間

御出可有之候、以上

十一月十二日